

経済透視図

(145)

強気の普及予想

2025年12月に東京ビックサイトで開催された国際ロボット展を視察した。産業、物流ロボットなどが数多く立ち並ぶ中、来場者の注目はヒューマノイド（人間型）ロボットにあった。

筆者は30年ほど前、ヒューマノイドロボットを先駆けて研究していた加藤一郎先生に大学の研究室で師事した経験がある。二足歩行に関しては1985年に早稲田大学のWAB OT11号機が動歩行を実現し、その後ホンダが開発した人型ロボットASIMOなどに脈々と受け継がれ、日本はロボット技術の先端を走っていた。

しかしながら、現在のヒューマノイドロボットの開発競争は米中がけん引する形で急速し、今後の普及予想も情報機関などから強

ヒューマノイド ロボット開発急加速

気の数字が散見され、中国ではUnitree Robotics、米国企業ではCrescent Robotics、UBTECHなどは、事業作業ロボット

の開発し、熾烈（しれつ）な競争を繰り広げている。

事業性に難点

を開発し、熾烈（しれつ）な競争を繰り広げている。

代表される。

ロボット開発の歴史は、事業作業ロボット

AI進展で米中けん引

テスラFigureなどの企業が強力な資金力、AI、Agility Roboticsのヒューマノイドロボット

導入徐々に拡大

ではなせ今、米中でヒューマノイドロボットの開発が熱を帯びているのか。そこにはデ

イブライニングなど、AI（人工知能）の急

速な進展があり、ロボットの学習制御のレベ

（隔週水曜日に掲載）

の溶接や塗装、搬送、も格段に高くなる。

日本企業がヒューマノイドロボットの開発から距離を置いたのも、実現できる性能と求められるスペックが合わないビジネスとしてのがたがた、開

発コストと導入メ

無断転載・複写禁止